



主な内容

楽しく地域創造活動を 副理事長 藤原 俊雄…… 1	新潟県中越沖地震への支援…………… 3 羽越水害復興40周年記念事業の 座談会に参加して…………… 4
創立5周年目の取組み 副理事長 島原 利昭…… 2	河川情報モニター活動について…………… 4 活動状況報告…………… 5
にいがた地域創造センターの応援に感謝します 柏崎地域振興局地域整備部長 鈴木 興次…… 2	役員の改選…………… 6 編集後記…………… 6



楽しく地域創造活動を

副理事長 藤原 俊雄

会員の皆様におかれましては、日頃より当法人の運営にご協力を賜り感謝申し上げます。ここ数年の間に県内は中越大震災、豪雨、豪雪、更に、今年になって柏崎市を中心に起きた中越沖地震と、会員の皆様にとって体の休まる暇もないほどの災害が続いて発生しました。また、建設事業費の長期低落傾向に歯止めがかからず建設関連を取り巻く状況は益々厳しさを増しています。このままでは日本のインフラ整備が進まず、世界に取り残されてしまうのではないかと心配な今日この頃です。

さて、旧新津市を貫流する能代川の河川敷では今年も「川を活かす会」の活動が行われました。にいがた地域創造センターの会員も大勢参加していますので、明るい話題として紹介致します。

能代川河川敷での大根の収穫は今年で4年目。太くて美味しい大根を主品に大宴会が開催された。しかし、宴会のために大根作りをしているのではない。平成16年の暮れ、旧新津市在住で県土木部の現職・OB約30人が集まった。元新津土木事務所に事務局を置く「川を活かす会」の発足である。「改修を終えた能代川の河川敷が荒れている。さあ、皆で草刈でもしようじゃないか」と誰かが発言したのが始まりで、そこになんと大根を植えようということになった。それも、自分達だけでなく、市民にも高水敷を開放し一緒に野菜作りを楽しむと同時にもっともっと能代川を大切にしてもらおうというのだ。

毎年毎年続けているといろいろなアイデアが出てくる。堤防道路では、少年駅伝大会とか無料レンタサイクルのお手伝いが行われたし、雑草の抑えついでに堤防に「土手カボチャ」を植え、「ハロウィンをやろう」とか、ヤギを飼って草を食べてもらい「その肉は皆で頂きだ」などである。更に夢は膨らむ。能代川に係わるボランティア団体を生み育てるといふ大きな目標も持っているのだ。 「川を活かす会」より抜粋

日本ではボランティア活動というと何か肉体的で、対象が困っている人達とか、一過性（災害など）の感じがありますが、私はこんな気楽な楽しいボランティア活動もあっていいのではないかと考えています。私も、当会員の一人としてこの「川を活かす会」に参加して、新たな活動の場を開拓する必要性や可能性、従来の発想にはない新しい時代を感じました。これからは、会員相互が豊かな発想を持って、楽しい地域活動を創造してみたいかがでしょうか。

今後とも、センターへのご支援ご協力をお願いしてご挨拶と致します。



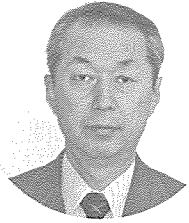
創立5周年日の取組み

副理事長 島原 利昭

NPO法人にいがた地域創造センターの会員および賛助会員の皆様にはセンターの活動に対しまして、常日頃御理解と御支援を頂き感謝申し上げます。センターが設立されて4年が経過しました。この間7.13新潟豪雨、10.23中越大震災、さらに追いつちをかけるように今年の中越沖地震と災害続きで、センターも設立早々その支援を行って来ました。県とは災害協定を結ぶなど一定のルールも出来たところで、当センターの設立主旨が住民と行政の間で中立、公平な立場で培った技術と経験を生かして、安全、安心、快適な地域を創造するための活動参加や災害支援など土木行政がスムーズに遂行されることに有り、この4年間は災害対応を中心に出来るだけのことをやって来ました。

さて、センターも設立して5年目を迎えました。今までは、会員の皆さんの殆どが二足の草鞋でしたので、ゆっくりながら地道にやって行こうと歩き始めました。これからは手の空く会員も増え始めましたし、土木協会からの寄付金等で資金的にも安定して来ており、運営も正念場を迎えて来たのではないのでしょうか。

入札制度改革の推進、品質確保と低入札の是正、中小建設業の疲弊からの脱脚、公共土木施設の整備と適切な維持管理の必要性等々、中立公平な立場で行政はもとより広く市民に働きかけ理解を得ることが重要です。このために会員相互でいろんな機会を捕えて意見を述べ、議論を交わし、その手法を模索することが5年目を迎えたセンターの取り組むべきことではないかと考えます。頑張りましょう。



にいがた地域創造センターの応援に感謝します

柏崎地域振興局地域整備部長 鈴木 興次

特定非営利活動法人にいがた地域創造センターの皆様におかれましては、日ごろから柏崎地域振興局管内の土木行政の推進にご理解とご協力を頂いておりますことに感謝申し上げます。また、平成18年度からの河川情報モニター事業による河川巡視により河川の危険箇所等の把握にご協力をいただき、ここにあらためて御礼申し上げます。

さて、柏崎地域振興局管内においては、平成16年の中越大震災、平成17年の梅雨前線豪雨からの復旧をなんとか終えようとした矢先、さる7月16日10時13分、新潟県上中越沖の深さ17kmを震源とするマグニチュード6.8の地震により再び公共土木施設に甚大な被害を受けました。

柏崎地域整備部では地震直後から、管内の道路、河川等の公共土木施設の被害状況を把握するとともに緊急輸送道路確保や二次被害防止のための応急対策工事を実施しました。また、今回の地震においては、広域にわたる災害でしたが、一刻も早い復旧を目指すため、災害査定においても、2ヶ月以内に実施するよう取り組むことと致しました。

このため柏崎地域整備部においては、初動対応に追われながらも、早期の災害査定を見据え、早急に詳細な被害状況の把握をしなければならないことから、貴センターをはじめ各種関係機関に応援を依頼することと致しました。

貴センターとは、「防災業務の応援に関する協定」を18年3月に締結させていただき、災害時における県管理公共施設の被災状況の調査などについて応援業務をおこなっていただくこととしておりましたので、地震発生後の7月25日、26日に道路状況の把握に延べ24名、7月30日から8月1日まで河川状況の把握に延べ27名、合計51名の会員より応援をいただきました。会員の皆様は、県のOBということから災害査定の内容を熟知されており、資料作成に迅速かつ適切に対応して頂くとともに、河川情報モニター事業による平常時の巡視結果を整理していただいたこと等も相まって、第5次査定～第7次査定（8月27日～9月14日）を円滑に進めることができました。ご協力に対し重ねて御礼を申し上げます。

災害復旧については、すでに工事着手しているところもありますが、これから本格的に復旧工事を進め平成20年度中の完了を目指しています。柏崎地域整備部としては、早期の災害復旧により、柏崎地域の皆様方に対する安全で安心な地域づくりに向けて取り組んでまいりたいと考えておりますので、貴センターの一層のご支援、ご協力を引き続きお願い申し上げますとともに、貴センター並びに会員の皆様のますますのご活躍、ご発展を祈念しましてご挨拶いたします。

新潟県中越沖地震への支援

業務部長 上西 健

平成19年7月16日（月）に発生した中越沖地震における支援活動に関し、会員の皆様に御報告申し上げます。

7月23日、新潟県から支援要請を受け、7月25日から8月1日までの間、県管理の道路・河川の被害状況調査及び被災家屋の道路に及ぼす影響等の調査を行いました。

道路関係では6班体制で2日間、河川関係では3班体制で3日間延べ51名の会員で実施しました。

また、柏崎地域整備部の皆様には公務多忙の中、私共の調査に同行し、ご協力を頂きましたことに大変感謝いたしており、あらためてお礼申し上げます。

当センターといたしましては、今回の支援活動の経験を生かし体制のあり方、行政との連携等再検討の上、更に拡充を図って参りたいと考えておりますので、多くの会員からのご意見をお願いいたします。

公共土木施設被害状況表

●査定決定額

(百万円)

工種	県 工 事		市町村工事		計	
	箇所数	金額	箇所数	金額	箇所数	金額
道 路	167	4,363	847	3,370	1,014	7,733
橋 梁	4	131	33	473	37	604
河 川	92	2,791	22	246	114	3,037
海 岸	9	290	0	0	9	290
砂 防	3	56	0	0	3	56
急傾斜地	2	55	0	0	2	55
下 水 道	0	0	58	6,202	58	6,202
公 園	0	0	9	130	9	130
計	277	7,686	969	10,421	1,246	18,107

災害支援活動に参加して

会員 小林 一敏

7月30日から3日間、中越沖地震の河川災害調査に参加しました。県職を卒業し、NPO会員として現場で災害調査を行うのは今回が初めてであり、現役時代にお世話になった県職員と一緒に活動ができるのは、懐かしさと共に“ヨーシ、一丁がんばるか！”という気持ちが生じ、少し若返ったような気分でもありました。

河川災害調査は3班に分かれ、各班ともNPO会員3名に柏崎地域整備部の職員1名が加わり4名体制で行われました。私達第3班は管内の北部に位置する別山川支川の坂田川他5河川を調査しました。河川の被災状況のほとんどが積ブロックや背後盛土の損壊でした。

災害調査の3日間は30℃を超える猛暑でありましたが、事前に用意した“熱中症予防帽子(水に濡らしてヘメットの下に装着するもの)”で、とても助かりました。

又、メンバーと一緒に“西山ふるさと公苑”で倒れた石柱を見ながら食べた昼食や、翌日の昼休み“ラピカ”で偶然遭遇した“角界力士たち”の震災慰問は、今回の災害調査と共に、私には忘れられない事のひとつとなりました。そして、NPOの会員になって地域貢献が出来たことは本当に良い経験となりました。有難うございました。

羽越水害復興40周年記念事業の座談会に参加して

会員 植木 昭一

昭和42年に本県を襲った未曾有の大水害「羽越水害」から今年で40年。

その記念事業の一つとして、去る8月5日（日）新発田市生涯学習センター講堂において「基調講演・座談会」（関係市町村、県、国で組織する実行委員会主催）が開催され、東京消防庁「ハイパーレスキュー隊」隊長・清塚光夫氏の講演の後、「地域防災力の再認識と向上」をテーマとした座談会にメンバーの一人として出席しました。

当日は、実行委員会事務局の県土木部砂防課や新発田、新潟、新津、津川の計画調整担当職員の皆さんと一緒に、当会員も運営に参加協力！

座談会では、当時の生々しい被害の様子や災害への備えの重要性のほか、防災に対するNPOや行政の果たすべき役割等についての意見が活発に交換されました。

40年前に96人もの尊い命が奪われる大水害が発生した地域だったこともあり、250人近くの市民で会場は埋まり、またセンター内通路に展示された当時の被害状況の写真や資料等をじっと見入る人も多く、参加された皆さんの防災意識の高さがうかがわれました。



河川情報モニター活動について

事務局

県の各地域振興局地域整備部から昨年にひきつづき依頼がありました河川情報モニター活動につきまして、会員皆様の全面的な御協力のもと無事終了致しました。ありがとうございました。

昨年、いろいろの課題があり、皆様からのアンケートにもとづき、県土木部河川管理課と協議しました。

その結果、実施期間6/1～9/30を、4/1～9/30として、融雪期後の河川状況把握や草木の繁茂する前での河川巡視を可能にした事。又、毎月の巡視を必要としないと判断される河川区間は年間回数を減らし、他の河川にふりわけた事。そして、原則1日で目視巡視出来る範囲内とする事等と致しました。そのうえで、各地域整備部の担当者と打合せ調整を行うことにより巡視河川・実施時期等を決定し、モニター活動を実施、所要の目的を達し成果をあげたところです。

なお、今回も会員の意見をアンケートの形でとりまとめ中であり、来年に向け更に改善を加えていきたいと考えております。

今後とも会員の御協力、よろしくお願い致します。

19年出水期 河川情報モニター実績

旧土木	巡視河川数	実施延長(Km)	参加人数(人)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	延人数(人)
村上	10	13.5	4	3	—	4	3	0	4	14
新発田	2	12.6	7	4	7	5	5	0	6	27
新津	22	90.3	22	15	16	20	17	8	20	96
津川	4	13.0	2	0	2	0	2	2	2	8
新潟	5	17.0	12	0	3	0	3	3	3	12
巻	7	82.7	10	0	10	8	8	8	7	41
三条	12	51.3	8	5	6	4	7	7	7	36
長岡	10	63.0	14	0	14	14	14	0	14	56
与板	3	24.5	3	0	3	3	3	0	3	12
小千谷	8	21.9	6	—	3	6	6	2	5	22
小出	2	16.0	3	0	3	0	3	3	2	11
六日町	2	10.8	4	4	0	4	4	0	4	16
十日町	6	27.0	7(8)	6	6	0	0	7	7	26
柏崎	3	27.0	6	0	6	6	6	0	6	24
上越・安塚	9	69.9	18	10	0	12	12	9	9	52
糸魚川	6	9.7	8	0	7	7	7	0	7	28
相川	9	25.6	7	0	6	6	0	6	6	24
合計	120(116)	575.8	141 (142)	47	92	99	100	55	112	505

※十日町内（ ）は他地域からの応援

活動状況報告

(平成18年12月～平成19年11月まで)

■ 平成18年

- 12月15日 第9回理事幹事会
平成18年度通常総会
・講演会及び懇親会
理事会20名
総会136名（他委任状94名）
（新潟ワシントンホテル）

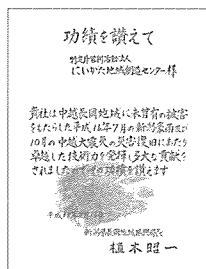


講演会及び懇親会
来賓 33名
正会員 128名
賛助会員 42名
講師：金子博県土木部長

■ 平成19年

- 2月13日 第10回理事幹事会(ウェルシティ新潟)

- 2月26日 災害復旧から
地域の復興へつなげる集い
「功績をたたえて」授与式



藤原副理事長出席
(ハイブ長岡)

- 2月28日 平成19年度
河川情報モニター会員説明会
40名出席
土木部河川管理課より3名出席
（新潟県建設技術センター）

- 3月9日 平成16年度中越大震災復旧
お礼状贈呈式及び懇親会
松井理事長・猪股事務局長出席
（新潟県自治会館講堂）

- 3月15日 能代川菜園造成補助



写真は秋の野菜収穫時

- 4月1日 河川情報モニター活動開始

- 4月10日 新潟県土木関係職員配置図発行

- 4月21日 第20回新潟県都市緑化フェア
後援・記念植樹
9名参加（新潟県スポーツ公園）



- 5月12日 紫雲寺記念公園内植樹
7名参加（にかた道の研究会）

- 5月28日 新潟産業廃棄物不法投棄
監視ネットワーク会議
猪股事務局長出席（新潟県自治会館）

- （7月16日 中越沖地震発生）

- 7月17日 土木部柏崎地域整備部へ災害支援
（食料品）

- 7月23日 新潟県知事より協定に基づく応援要請

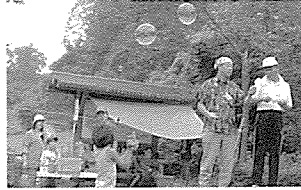
- 7月25日～8月1日
道路関係・家屋関係及び
河川関係災害支援
延べ51名



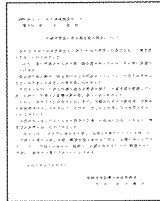
- 8月5日 羽越水害復興40周年記念事業
基調講演及び座談会
20名参加
（新発田市生涯学習センター）



8月11日 第4回万内川砂防公園
サマーフェスティバル
上越地区会員約20名参加



10月5日 中越沖地震に係る支援に対し、柏崎地
域整備部長より感謝状

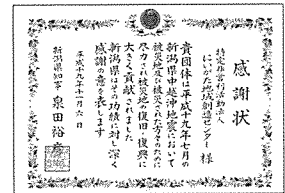


9月下旬 平成19年度出水期における
河川情報モニター活動終了
延べ505名

10月23日 新潟県中越大震災3周年合同追悼式
松井理事長出席（長岡市立劇場）



11月6日 新潟県中越沖地震感謝状贈呈式
松井理事長出席（県庁西回廊講堂）



役員の変更

平成18年12月15日開催の通常総会で当NPO法人の役員は下記のとおり改選されました。
任期は2年（平成20年度の通常総会まで）です。なお各事業部員は次のとおりです。

◆組織図（理事18／幹事2）

理事長	松井 進
副理事長	藤原 俊雄 島原 利昭
理事	監事
石田 忠義 池田久一郎	野崎 和久
猪股 弘治 大塚 正恒	小林 謙二
小野塚眞一 上西 健	
木村 文三 手塚 清光	
坪木 洋一 中町 和男	
平澤 修爾 村本 至	
村山 和弘 吉野 利夫	
米野 紀男	
事務局長	猪股 弘治
事務局	吉田 敦
総務部	猪股 弘治
企画部	小野塚眞一
業務部	上西 健
広報部	米野 紀男

総務部員	○猪股 弘治、村山 和弘、野崎 和久、 白倉 良之、佐々木 正、菅家 淳一、 伊藤 靖 7名
企画部 及び 業務部員	○小野塚眞一、○上西 健、手塚 清光、 石田 忠義、村本 至、小林 謙二、 池田久一郎、吉野 利夫、森田 幸作、 須藤 良策、小林 一敏、三ヶ月 崮、 加藤 幸男、江村宗一郎、佐伯 義利 15名
広報部員	○米野 紀男、大塚 正恒、石橋 輝樹、 小池 正司、丸山 澄夫、浜田 稔、 飯塚 治雄、眞田 弘信 8名

(○部長)

編集後記

会報第3号は総会の発行日に合わせ編集作業に入りましたが、おかげさまで何とか間に合いました。
原稿を依頼した会員の皆様に感謝申し上げます。
尚、会報を手にしてお気付きだと思いますが、1ページ目をカラー刷りいたしました。(S)



特定非営利活動法人(NPO法人)
にいがた地域創造センター

理事長 松井 進

〒950-1101 新潟県西区山田2522-18
(財)新潟県建設技術センター内3階
TEL/FAX (025)267-4877

H19年12月1日現在 正会員：275名 賛助会員：184社